

石碑の覆堂  
をつくる

材料は水戸  
から購入

鉄で石碑を  
補強する

垣根を作る

覆堂の敷地  
の広さ

那須国造碑  
の計測図

一 (石碑をおさめる)お堂は一間(1・8メートル)四方で、桁より下は五尺八寸(176センチ)、三方向に槐(えんじゆ)の板と、それから槐の柱を、四方に岩石四つ、鉄のほぞ四つ、これは水戸から届いたもので費用は(大金)重貞が支払った。石碑は四尺三寸(高さ126センチ)、石碑を載せる下段と上段の石の間には鉄のほぞを入れ(て補強し)、上段の石と石碑の間に鉄のほぞを入れ、石碑と笠(上に載る石)の間に鉄のほぞを入れ、合計で七つ、この費用は(大金)重貞の方から代金を水戸へ届けた。蹴込み石が四方向に六尺(1・8メートル)で幅五寸(15センチ)厚さ三寸(9センチ)。

一 竹で作った囲いは長さ七間半(13・5メートル)横七間(12・7メートル)高さ一間(1・8メートル)。ただし栗の丸太と松の木を二十本、竹を三百七十本。

一 幅は、お堂の内側の土地が長さ二十四間(43メートル)横六間(11メートル)の幅である。

